



## 院長就任のごあいさつ

## 患者さん一人一人の尊厳を大切に

院長 須藤 まき子

今年1月より、外旭川病院院長に就任いたしました須藤でございます。当院は昭和63年10月に新屋割山地区にありました勝平中央病院から外旭川地区に移転し、外旭川病院と改名致しました。移転時より勤務させていただいてから31年間、たくさんの患者さま・ご家族さまや職員、関係者の方々より様々なご助言やご指導をいただきながら勤務してまいりました。

平成21年には副院長職を拝命し、穂積恒理事長、三浦進一院長のご指示のもとで患者さま・ご家族さまや職員の安心、安全のために医療安全体制の確立と感染対策に取り組んでまいりました。また当院では良質な医療を維持すべく病院の各部門が積極的に質改善に取り組み、病院機能評価機構による4回目の更新審査を受け、平成30年11月より新たに5年間の認定を更新することができました。

昨今、医療の社会的状況は目まぐるしく変化し、少子高齢化に伴い求められるニーズも大きく変化しております。今後は地域包括ケ

アシステムに対する新たな取り組みも必要と考えられ、当院と関連した訪問看護・訪問リハビリテーションや各施設と密接な連携を行い、地域の皆さまの医療・福祉に貢献してまいりたいと存じます。

また個人の価値観も多様化し、人生の最終段階の迎え方の理想像は一人一人異なるものになっています。その中で当院のような慢性期医療と緩和ケアを担っている病院が大切にするべきことは、それぞれの患者さまの尊厳とお考えを尊重し、患者さま・ご家族さまに「良い人生を過ごした」と感じていただくことではないかと考えております。そのためにやらなければならないことは何かということを常に念頭におき職責を果たしてまいりたいと存じます。

微力ではございますが地域の医療に貢献できるよう努力してまいりますので、何卒ご指導ご教示を賜りますようお願い申し上げます。

## 働くスタッフにクローズアップ



外旭川病院に入職し、気が付けば1年が経とうとしています。自分の至らなさを感じ、気持ちが落ち込むこともありましたが、病棟の先輩方に支えていただき、乗り越えることができました。

療養病棟で働く中で、ある気付きがありました。それは「〇〇さんにこうやって話しかけたらこんなに良い表情をしていた」「〇〇さんは昔こんなことが好きで、こんなことをしたら喜んでいた」など、患者さんの病状だけではなく、患者さんご自身の今日までの生活や性格についての話題が多いことです。また、職員一人一人が温かみのある声掛けや関わりをしていると感じます。そのような日々の関わりは、患者さんの変化に気付くことにもつながっていき、患者さんの命を

守ることにもつながっていくのだと思います。

私はご高齢の患者さんとたくさん関わりたいという思いから、看護師としての道を選びました。2年目、3年目と経験を重ねていく中でも、日々の忙しさに優しさが埋もれてしまわないよう、これからも日々精進していきたいです。



2病棟看護師●山本芽生

## 患者さんの思い に寄り添って —

リハビリテーション科 科長  
作業療法士 ● 保坂真子



私たちリハビリ科は理学療法士2名、作業療法士3名、言語聴覚士1名が在籍し、主治医の指示に基づき、患者さんへリハビリテーションを実施しています。患者さんの「できるようになりたい」という思いに応えられるよう、一人一人に合わせた具体的な目標を持ってリハビリテーションを行うことを心掛けています。定期的なカンファレンスの開催により患者さんのリハビリ方針をチーム全体で確認し、チームが連携してより良いリハビリテーションが提供できるよう取り組んでいます。

寝たきりの患者さんに対しては、ベッドから起き上がり、生活の範囲が広がるよう促しています。座位（座った姿勢）を取り、場所を変えるだけで反応が向上し、表情に変化が出てくることも多く見られます。座位のままで行えるリハビリ活動として、患者さんの機能に合わせたちぎり絵や裁縫な



どの手工芸や体操などを取り入れています。また、ベッド上のリハビリでは動かす

ことができない関節や拘縮が進んで硬くなった関節を動かし、安定した姿勢が取れるようクッションやタオルで整えています。



自宅に退院される患者さんに対しては、事前に自宅訪問をし、退院後の生活を想定した動作方法の練習やご家族に向けた介助方法の説明、家屋改修や福祉用具の選択・紹介などの支援をしています。退院の場合だけでなく、お孫さんの結婚式への参加や一時的な外出時にも、外出先の状況を想定した動作練習や介助方法の確認を行っています。

他には、患者さんの「食べたい」「水が飲みたい」というご希望に対して専門的に介入し、安全に食べることができるよう支援をしています。患者さんの様々な状況に合わせてリハビリを行い、患者さんのご希望、ご家族の思いに寄り添い取り組んでいきたいと思ひます。

病院では、患者さん・ご家族の希望を少しでも叶えられるように多職種のスタッフがチームとなってサポートしています。それぞれの専門スキルを発揮し、患者さんのQOL(生活の質)の維持・向上に努めています。

認知症ケアチームは、治療のために入院した認知症の患者さんが、認知症状を悪化することなく治療を円滑に受けられることを目的に活動を行っています。チームメンバーは、認知症サポート医4名、認知症看護認定看護師1名、社会福祉士2名、病棟の看護師や看護補助者など多職種で構成しています。

看護補助者を交えて、認知症の患者さんの生活状況、生活リズムの調整、生活のしづらさの検討、治療方針、ケアの見直しを行っています。

記憶障害から最近の記憶や行動全体を忘れてしまう認知症の患者さんには、会話の中にさりげなく「季節や日時、場所」を織り交ぜた会話を心掛けています。また、認知症の患者さんが入院中でも楽しめる季節の行事を行い、普段は見ることができない表情や行動を引き出し、「今」を感じることができるような取り組みを考えています。

認知症ケアチームは、認知症の患者さんが「心地良い」と感じていただけるケアを目指し、多職種で連携し活動を続けています。



▲病棟巡回の際には、様々な工夫をして普段とは異なる患者さんの表情や反応を引き出す取り組みを行っています。

認知症の患者さんは環境の変化に対応することが困難な場合が多いため、入院時から認知症ケアチームが介入し情報の共有と環境の調整を行っています。また、1週間に一度は認知症の患者さんを巡回し病棟の看護師や看



▲多職種のスタッフが集まり、患者さんの認知症状悪化予防と治療についてカンファレンスを開き、情報共有を行います。



じゅんけいかい  
医療法人 惇慧会  
外旭川病院



〒010-0802 秋田市外旭川字三後田 142

☎ 018-868-5511 [FAX] 018-868-5577

E-mail sotohp\_kouhou@jkk-sotohp.or.jp

ホームページ <https://jkk-sotohp.or.jp/sotohp/>

- 病床数 241 床（療養病棟 207 床、緩和ケア病棟 34 床）
- 診療科目 / 内科、皮膚科、リハビリテーション科